

時の動き

今参議院選挙で何が見えてきたのか！

新社会党久喜支部委員長

渋谷 晃次

後味の悪い選挙

今回の参議院選挙は、後味の悪い国政選挙として、国民の脳裏に焼き付いてしまったのではないだろうか。言論の府である国会議員を選ぶ、民主主義の砦である国政選挙の最中、7月8日の参院選終盤に元首相の安倍晋三氏が銃撃され、命を落とすという痛ましい、絶対にあつてはならない、許すことのない出来事がありました。しかし、岸田首相が7月15日に発表した、安倍元首相礼賛の「国葬」の実施については、安倍元首相に対する政治的評価、政治的批判とはまったく別問題であり、国民の内心の自由にかかわる問題でも

あり反対いたします。

惨憺たる選挙結果

選挙結果は、目を覆いたくなる惨憺たる状況であり、今後の政権運営は「黄金の3年」と言われているように、すべて、私たちが戦後に勝ち取ってきた民主主義的な様々な権利がことごとく壊滅的な状況を迎える気がします。

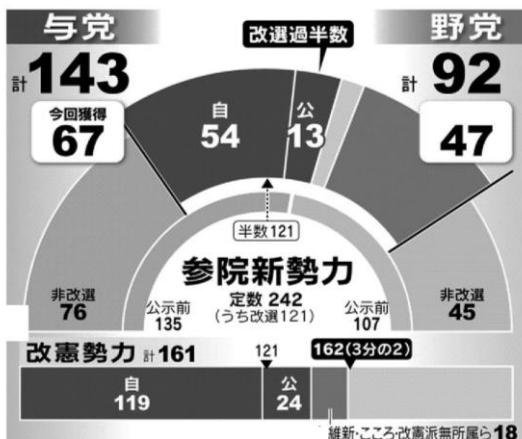
この参院選に大きな影響を与えてきたロシアのウクライナ侵攻による日本国憲法に対する見方が、憲法改正に国民の一票が、「改憲」に賛成する支持とが、自公への追い風を作り出したこ

とは確かだと感じましたが、憲法改正に対する国民の53%以上が、急いで改正を押し進めるな、とブレーキをかけています。

世論操作で軍事費増強へ

国民が、自公の掲げる日本の将来にロシアのウクライナ侵攻を「日本に他国軍隊が攻め込んできたら、あのような状況に追いやられる」というイメージを抱かされたことは、政権与党と一部マスコミの報道操作によって、ウクライナのようにならないためにも、日本の国を守るための軍備増強に防衛費の予算を5年で2倍にするという現政

◆時の動き



権を支持するという暗黙の状態が形作られてしまったのではないのでしょうか。

野党共闘の失敗

自公・維新陣営は、この参議院選挙で、参議院も改憲勢力の3分の2以上を越すことを目標に準備を行ってきたわけで、それに引き換え野党陣営の昨

年の衆議院選挙における選挙結果は、「野党共闘の失敗」と、特に共産党との共闘に、異を唱える連合の芳野会長の一言で、特に立憲の泉代表の腰が引け、共闘が限定的に終わり一人区での野党共闘の足並みがそろわなかったことは、今後の野党共闘に新たな前向きの議論が巻き起こらない限り、今の状況が変わることはないと思われまふ。

改憲阻止、野党の院内外共闘を

自公政権とともに、維新の会・国民民主という改憲4勢力は、今後の「黄金の3年間」には、自公政権より維新の会は、積極的な姿勢に出ることが予想され、彼らの動きに合わせるように、国民民主も「合意できるものから議論すべき」と前向きな発言を行っていまふ。今後は、衆参での憲法審査会が腰を据えた議論ができる環境の中で、どんな議論の進め方がされるか注目されますが、野党第1党の立憲民主・共

産党・社民党（1議席と政党要件を守った）・れいわ新選組・ほか、みどりの党なども院内外共闘を呼び掛けて、改憲阻止の闘いへ全力を挙げるべきと考えます。

小異を捨てて大同につく

今の自公政権を倒すには、野党共闘だけでは、難しいと考えます。今回32の1人区で、野党の一本化が出来た11選挙区で野党は2勝しかできなかった事実、野党競合の21選挙区では、2勝しかできておりません。労働界（連合・全労連・全労協など）・市民連合・野党共闘等の共闘態勢もこれから労働界も巻き込んだので大幅な共闘の輪を作り、これに参加する様々な団体が、小異を捨てて大同につけるのが問われていると思います。黙っていは、元の木阿弥です。

(しげや こうじ)